

# Glocal Tenri



3

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.21 No.3 March 2020

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

## CONTENTS

- ・ 巻頭言  
聞きだすけ  
／堀内みどり..... 1
- ・ 日系移民の歴史にみる天理教の北米伝道の様相 (最終回)  
現代の北米日系人と天理教 ②  
／尾上貞行..... 2
- ・ 日本語教育と海外伝道 (20)  
日本語教育でのコンピューター利用について③  
／大内泰夫..... 3
- ・ キルケゴールで読み解く 21 世紀 (18)  
研究論理と伝記的研究 — カフカとキルケゴールの場合  
／金子 昭..... 4
- ・ 「おさしづ」語句の探求 (39)  
「おさしづ」第5巻における本席身上願と「道」  
／澤井治郎..... 5
- ・ 遺跡からのメッセージ (55)  
弥生時代を再考する⑨ エポックメイキングな発掘調査、池上曾根遺跡  
／桑原久男..... 6
- ・ ニューヨーク通信 (4)  
文化協会を支える人々  
／福井陽一..... 7
- ・ コンゴ社会から見るアフリカ・ヨーロッパ関係試論 (32)  
大統領暗殺事件 ①  
／森 洋明..... 8
- ・ 現代宗教と女性 (26)  
「優生保護法」改定阻止運動 ③  
／金子珠理..... 9
- ・ 思案・試案・私案  
「碑」の字表記問題再考 (5)  
／八木三郎..... 10
- ・ 図書紹介 (116)  
天理大学教員の近著より — 2019 年度天理大学学術出版助成による著作  
／金子 昭..... 11
- ・ 2019 (令和元) 年度「教学と現代」の案内 / 2020 年度公開教学講座の案内..... 12

## 巻頭言

### 聞きだすけ

おやさと研究所主任 堀内みどり Midori Horiuchi

20 数年前、「聞きだすけ」ということを聞きました。身上の障り(病気など)や事情のもつれ(日常生活や人間関係などの悩み)を「聞く」ことでたすけていただいた「おたすけ」がかつてはあったということでした。この場合、「聴」という漢字の方がぴったりすると思うのは「傾聴」ということが思い浮かぶからかもしれません。

「傾聴」は、アメリカの心理学者でカウンセリングの大家としても知られるカール・ロジャーズ(Carl Rogers)が提唱した技法とされます。ロジャーズは、自らが行ったカウンセリングの有効例から、聴く側の3要素として「共感的理解」、「無条件の肯定的関心」、「自己一致」を挙げています。天理教では「おさづけ」を取り次ぐ際には、一言でも神様のお話も取り次ぐことが教えられ、

その場合、議論をしたり、相手を説き伏せたりするような態度は厳に慎まねばなりません。(中略) 真実をもって取り次ぎさせていただきます。(https://www.tenrikyo.or.jp/yoboku/otasuke/mijo/)

と相手を尊重する態度の必要を説きます。「親神の話一条」でたすけが可能なのは、取り次ぐ人の真剣さが伝わり、相手のことを尊重しているという態度の上に成り立つものでありましょう。ロジャーズの傾聴に通じているように思われます。相手の話を、その立場や気持ちに共感しながら理解しようとする傾聴は、当事者を否定することなく、「聴く」ことで相手の悩みや問題を明らかにしつつ、解決を導き出すということになるでしょう。

愛知学院大学の熊田一雄准教授は、「宗教生活において、説法や体験談活動のような『語る』という行為は確かに重要だが、『聴く』という行為の重要性は、宗教学では従来あまり注目されてこなかった。日

本の新宗教である天理教には、『聴きだすけ』という言葉がある。」とし、

先輩布教者の経験から生まれた言葉に「聴きだすけ」というものがある。徹底して聴き、心の痛みを共感する中から事態が見えてくるのである。相手も思いの丈を話すことで、心の重荷を幾分か降ろせる場合もある。／そして事態が見えてきたら、次の段階として、目の前の現実的問題に対処する。その際、必要に応じて専門家や専門機関の活用を検討する(天理やまと文化会議(編)『道と社会』天理教道友社、2004年、p.56)。

を紹介しています(『聴きだすけ』ということ』『愛知学院大学人間文化研究所所報』37号、2011年)。

では、現在の「聴きだすけ」はどのような展開となっているのでしょうか。天理教青年会は『あらきとうりよう』275号で「聴く力」を特集、Wa-luck(ワラック)で、『聞き屋』に挑む男たち』を配信し、「新たな形のにをいがけに取り組みする二人の青年会員を取材」しています。記事は、

駅前で「あなたのお話聞かせてください」と書かれた看板を掲げ、道行く人の話に耳を傾ける。お代は無料。俗に「聞き屋」と呼ばれるこの慈善活動が、一部で盛んに行われている。聞き屋は、東日本大震災で被災した方々の心のケアサポートの一環として始まったといわれる。現在では、お道の中でも、新たな布教のスタイルとして聞き屋の活動に取り組みむ者が増えている。

と伝えます。熊田准教授は「宗教生活においては『語る』ことだけではなく『聴く』こともまた重要な意味をもつ(前掲論文)と述べます。天理教では先人の経験値が生み出した「聞きだすけ」が、このような「聴きだすけ」となって継承されているように思われます。